

所属・資格 国文学科・教授

申請者氏名 藤平 泉

研究課題		新古今時代後期歌壇の研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	「新古今和歌集」編纂の最終期（承元～建保期）において、藤原秀能、源通光など新進の歌人とそれまで歌壇を主導してきた藤原定家との間には、歌風上対立が生じてきていた。後鳥羽院は新進歌人には寛容であるが、それは多分に定家への反発に起因していたと思われる。本研究では、その三者の歌風上での相違や歌論上での対立点を明らかにする。
	研究の結果	「新古今和歌集」の編纂が一応終わった元久二年後、承元元年において、それまで後鳥羽院を支えていた藤原良経の急死、後鳥羽院の寵妃尾張の死など歌壇には沈鬱な空気が流れていたと思われることが、各歌人の家集や定家の日記「明月記」によって明らかになっている。特に承元元年七月の和歌所での歌会の詠歌に注目し、各歌人の詠歌を分析し、その特徴とそれ以前との歌風の変化を考察した。
	研究の考察・反省	研究の成果を今後論文化、口頭発表にむけて準備しているが年度中には間に合わなかった。来年度中には発表したい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日／場所	なし	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		